

長編ドキュメンタリー映画

文部科学省・特選

蘇る玉虫厨子

時空を越えた技の継承

玉虫の輝きをもう一度…

法隆寺に集まった4人の職人に
与えられた使命は、

「飛鳥時代につくられた美術工芸部門の
最高傑作を現代に蘇らせること」だった…。



〈出演&語り〉 三國連太郎

〈監 督〉 乾 弘明 (「平成職人の挑戦」文化記録映画賞受賞他)

〈出 演〉大野玄妙(法隆寺管長)、故中田金太(製作総指揮)、立野敏昭(蒔絵師)、中田秋夫(設計施工)
八野明・改田剛(宮大工)、山田耕健(彫師)、坂本茂雄(塗師)、森本安之助(鍔金具師) 他

製作/平成プロジェクト(2008年 64分 カラー) 制作/花組 プロデューサー/益田祐美子 監修/中田秀子 取材/勝俣幸多、関根由美子
脚本/釜澤安季子 撮影/長塚史視 他 テーマ音楽/真島俊夫 題字/高橋峰外 MA/濱田豊 音楽/引地康文 制作協力/法隆寺、飛騨
高山茶の湯の森美術館、NHK、玉虫研究所 協力/稲忠漆芸堂、小学館、文化シャッター、奈良ホテル、TSP

現代と過去の職人たちの時空を越えた技心の交流—。1400年の時を経て、仏教美術の最高傑作がいま蘇る!

「『玉虫厨子』復元にかかる職人たちの仕事ぶりを見て、彼らの情熱・人間性・社会性、また戦後見捨てられてしまった日本文化を蘇らせようとする誠実さに感動しました。私も一人の職人として、自分の役者人生を、一生懸命自分で納得できるように、問い返したいと思っています。」
三國連太郎(俳優)



国宝「玉虫厨子」とは?

飛鳥時代に作られ法隆寺の金堂に安置されていた仏堂形の厨子(仏像を安置する両扉の仏具)で日本国宝。全体に黒漆を塗り、金銅の透かし彫り金具の下に大量の玉虫の翅を敷き詰めて装飾したことからこの名がある。飛鳥時代の建築・工芸・絵画の遺品として非常に重要な作品。現在、玉虫の翅は一部に残るのみで、当時の華麗さは失われてしまっていた。



玉虫は古来より縁起のよい虫として重宝され、女性は「恋がかなう」「着物が增える」(蓄財)という言い伝えがある。



日本文化を蘇らせる“匠”たち

幻となった華麗な名品・国宝「玉虫厨子」の復元を計画したのは、今は亡き実業家の中田金太。日本の伝統文化を守り継承したいと願う彼は、私財を投じて全国から腕に覚えのある職人たちを呼び集める。しかし、直接手を触れることが許されない国宝のため、彼らは一般公開される数少ない機会にその姿を脳裏に焼き付けるしかない。設計師・宮大工・蒔絵師・塗師・鋳金具師ら平成の匠たちが、その技術と想像力を駆使して奮起する様は、まさに時空を超えた飛鳥時代の匠との技と心の交流。いま、失われた名品が輝きを取り戻し、私たちの心に忘れられた感動を蘇らせる。



公式ホームページ <http://heiseimaster.com/tamamushi/>

11月29日(土)よりロードショー

特別鑑賞券 ¥1,000 (税込) 絶賛発売中!!

【当日一般・学生 ¥1,200 (税込) のところ】
ご鑑賞日の5日前から指定席券とお引換え頂けます
※本編はデジタル上映です

銀座テアトルシネマ 有楽町線銀座一丁目駅7番出口
銀座線京橋駅2番出口 徒歩2分

11/29-12/5 10:00 13:50 17:40 19:10 (11/29,30のみ)

03(3535)6000 www.cinemabox.com
12/6以降の上映時間は直接劇場にお問い合わせ下さい。

全席指定 / 定員入替制

毎週水曜日はサービスデー
男女共に ¥1,000 均一

